

「全鍍連」 2018年 5月号 いきいき地域

福井県表面処理工業組合 大井 範夫 (株美装ジャパン 代表取締役会長)

我が街自慢「めがねのまちさばえ」



福井県は全国でも人口当たりの社長の数が一番多い県でありものつくりの中小零細企業が多い県である。そして日本総合研究所が発表する幸福度ランキングでも常に全国総一位に輝く県でもある。小学生の学力・体力でも常に全国上位を占めている。みどりが豊富で海や山にも近く海の幸・山の幸にも恵まれ水や空気がおいしい街である。また、特筆すべきは福井県は眼鏡フレームの生産高が全国一であり全国シェアの97%以上を占める世界三大産地の一つでその技術力・品質力・開発力で世界に冠たる産地である。福井県のメガネは明治38年に増永五左衛門翁により大阪よりメガネ職人を招聘し始められたとされる。以来、順調に眼鏡産業は成長を続け、それと共にメガネ枠のメッキを専門とする多くの企業が生まれた。福井県表面処理工業組合は現在組合員数11社であり、そのうち6社が眼鏡のメッキを専門とする企業である。その他機械関係のメッキ業者が3社。電子部品関連のメッキ業者が2社である。

特にメガネのメッキ加工を専門とする企業はそれぞれ鯖江市に在住し、鯖江市が「めがねのまちさばえ」を標榜している訳だが、我々もその一翼を担っていると言って過言ではない。行政も「めがねのまちさばえ」を地域ブランドとして掲げ市長自らがトップセールスで鯖江市を全国に公報している。JR鯖江駅よりメガネ会館に至る道路をメガネストリートとしてメガネのモニュメントやタペストリーを配し盛り上げている。更には積極的に行政のデータを公開し足り市民役条例を制定し市民主導のまちづくりを推進し全国的にも注目を浴びている。そしてメガネだけでなく繊維産業、漆器産業、IT企業、医療器具や小物精密加工産業などものつくりの町として栄えている。そしてメガネでとんがりを作り時計で言えばスイス・バーゼルのように、メガネと言えばジャパン・サバ工と言われるように頑張っている。そしてメガネ産業はその生産される商品の約30%を海外に輸出しており早くより国際化が進んでいる。海外進出にも積極的で一時はメッキ関連で5社が海外へ進出していた。現在は3社が海外での営業を続けている。

また、鯖江市の中央には鯖江藩7代藩主間部詮勝公（天保11年より幕閣最高位である西丸老中職を務める）により領民の憩いの場として造られた嚮陽溪があり、今は西山公園として市民の憩いの場であり、そして全国にも歴史公園としてつつじの名勝地であり、レッサパンダの故郷の公園として知られる我が街自慢の公園である。これからも我々は企業市民として地域のモノづくりに密着し、地域を誇りとして夢を語り続けていきたいものである。